

TAKEHARA ROTARY CLUB

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2710

WEEKLY BULLETIN

竹原ロータリークラブ週報



2009～2010年度 国際ロータリー ジョン・ケニー

会 長	中川 康子	副S A A	坂田 武文
会長ノミニー	佐々木秀明	直前会長	土居 敏昭
副 会 長	下山 生修	管理運営	藤中 保
幹 事	梶谷 寛康	会員組織	鴨宮 弘宜
副 幹 事	堀越 賢二	奉 仕	佐藤 守幸
会 計	森 照明	広 報	夜船 正昭
S A A	原田 一平	R財米山	吉本きよ子

<事務局> 〒725-0026竹原市中央4丁目6-18樋ノ口屋おおぎビル203号
TEL 0846-22-7570 FAX 0846-22-7651

Email: rc-take@estate.ocn.ne.jp

URL: www5.ocn.ne.jp/~rc-take/

<例会場> 〒725-0021竹原市竹原町3591-1 大広苑

TEL 0846-22-2970 FAX 0846-22-7822

<例会日> 毎週木曜日 12:30～13:30 発行: クラブ広報委員会

本日のプログラム 9月17日

クラブアッセンブリー

次週のプログラム 9月24日

ガバナー公式訪問

2009年9月10日 第2213回(委員会席)例会記録

- ソング: それでこそロータリー
- ゲスト: G9ガバナー補佐 本庄 純夫 様
G9ガバナー補佐幹事 市川 重雄 様

スマイルボックス

- 結婚記念日・・・久藤
- 特別スマイル
- ・本庄G9ガバナー補佐様、市川補佐幹事様
- ・本日はプレ公式訪問でお世話になります。皆様のご協力宜しくお願い致します。
(本庄純夫・市川重雄)
- ・9月5日元安芸乃島の高田川部屋襲名披露に出席しました。白鵬の土俵入りも目の前で見ていただき安芸乃島が立派になられた姿に感動致しました。
(中川康子)
- ・9月6日に行われました第330回たけの子会ゴルフコンペで優勝致しました。元気でゴルフが出来ることを感謝しています。
(吉岡一眞)

本日のスマイル¥ 16,000
今年度スマイル累計¥ 433,000
スマイル残高¥ 4,158,768

クライミングボックス

- ・上着を忘れました。(菅 義尚)
- ・消防団の小型ポンプ操作の県大会が終わりました。竹原市は思うような結果に至りませんで大変残念です。
(久藤孝仁)

本日のクライミング¥ 4,000
今年度クライミング累計¥ 12,000
クライミング残高¥ 1,120,642

幹事報告

幹事 梶谷 寛康

- ・ラビットクロカンin大久野島'09協賛金お願い
- ・ダメゼッタイ国連薬物乱用防止活動の募金箱を回覧しましたところ4,515円の金額となりました。ご協力有難うございました。
- ・本日はプレ公式訪問例会です。13:40よりクラブ協議会を行います。各委員長さんより活動計画の発表を行って頂きますので宜しくお願い致します。入会年次の浅い方は是非ともご出席下さいますようお願い致します。

会長時間

会長 中川 康子

皆様こんにちは。本日はガバナー補佐本庄様、同補佐幹事市川様をお迎えしてのプレ公式訪問の例会でございます。本庄様、市川様には続いてご多忙のことと存じます。例会終了後のクラブ協議会も宜しくお願い致します。

9月5日安芸乃島の高田川部屋新築披露へ出席致しました。立派な会館が出来上がっており、白鵬の土俵入りも見させて頂きました。安芸乃島が立派になられた姿に感動致しました。親方としてこれからの活躍を期待しております。

9月7日には広島県共同募金会竹原市支会委員会へ出席致しました。竹原市支会には12人の委員がおられます。昨年は前土居会長がその任にあたられております。平成21年度の募金目標は690万円で、内、県の共同募金への直接配分は256万4,000円、地域配分として竹原市へは433万6,000円の予算が組まれております。竹原支会では10月1日に8ヶ所で街頭募金を計画されております。ロータリーとしても参加させて頂きますので宜しくお願い致します。以上で会長の時間を終わります。

委員会報告

■親睦活動委員会 委員長 木村 安伸
8月20日（木）行われた納涼例会決算について報告。
10月8日（木）18時30分より黒浜に於いて月見例会
を開催致します。登録料は会員5,000円、配偶者3,
000円です。多数のご参加をお願い致します。

ガバナー補佐プレ公式訪問

RID2710地区G9
ガバナー補佐 本庄 純夫様



皆様こんにちは。残暑厳しい中、ネクタイ、上着着用でご出席をいただき恐縮です。本日はG9の中で一番やりやすく、大変なプレッシャーを感じております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私は昨年9月27日国際ロータリー第2710地区2009-2010年度岡田ガバナーエレクトよりG9で輪番制になっておりますガバナー補佐の職を拝命して以来、当クラブの皆様方には色々とお世話になりまして、誠に有難く厚くお礼を申し上げます。本日はいわゆる、プレ公式訪問として当クラブにお邪魔を致しましたので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、2009-2010年度の新しいロータリー年度がスタートして早くも二ヶ月が経過致しました。皆さん既にご承知のように、本年度のR Iテーマは「ロータリーの未来はあなたに手の中に」とされ、ジョン・ケニーR I会長は本年度の強調事項として「水（きれいな水）・保健と飢餓・識字率の向上」を掲げ、また、R I 2710地区岡田ガバナーはその信条として、「ロータリーにはまろう」と呼びかけておられます。

そしてケニーR I会長は、ロータリーの要はクラブであり、強調事項を掲げることによって、会員個人個人の意識が喚起され、その努力が結集されると述べられておられます。また「21世紀において、そしてこの先のロータリーの発展は個々のロータリアンが行う奉仕に委ねられている。他でもない私たち一人一人にかかっているのである。同様に個々のロータリークラブがロータリーを固めていくものだと信じている。」と語っておられます。

このように、本年度のロータリーの進むべき基本的方向は、ロータリアンの自主性とクラブの主体性尊重の考え方が明確に打ち出されているように思います。

ロータリアン一人一人がもっとロータリーに対する意識を喚起して諸活動に積極的に取り組み、とかく最近、勢いを失ったといわれるロータリーに如何にして往年の活力を取り戻すか、即ち、如何にしてロータリーの活性化を図るかということを実際に考えなければならぬと思います。

従って本年度のキーワードは、「ロータリーの活

性化」ということになると思います。

本ロータリー年度の初めにあたり、会員の皆様におかれましては、どうかこのことを念頭に置いていただき、活動計画の達成に向け明確な目標を持って積極的に取り組んで頂きたいと思っております。

次に、ガバナー補佐の任務については先般来の訪問の際に既にご説明申し上げている通りでありまして、地区リーダーシッププラン（DLP）において明確に示されているように、ガバナーを補佐するための職務として種々の任務が課せられており、特にグループ内、各クラブに関連するものとしては、第1番目に、新年度のスタート前に、次期クラブ会長と会い、CLPの推進、実施、見直しを行い、新年度のクラブの目標について協議し、「効果的なロータリークラブとなるための活動計画の指標」を検討するにあたって助力する。

第2番目に、担当するクラブを定期的に訪問し、会長やクラブ指導者に会い、クラブの業務、クラブが利用できる資料、支援源について話し合う。

第3番目に、ガバナーの公式訪問に際して開かれる各クラブのクラブ協議会に出席する。

その他として、クラブがガバナーの要請や推奨事項を実行するよう奨励する。等々が主要なものであります。

本日の訪問は、いわゆるガバナー補佐のプレ公式訪問と称するもので、グループ内の各クラブに対するガバナーの公式訪問の二週間前にガバナーの代理として当該クラブを訪問し、クラブ協議会に出席させて頂き、クラブの現状を把握し、ガバナー公式訪問に備えることが主な目的であります。

このように、ガバナー補佐はガバナーとクラブの中間にあつて、ガバナーを補佐すると共に、地区の要であるクラブの支援をより迅速・綿密にするよう努め、両者間の連絡調整の円滑化を図り、グループ内各クラブの適正な運営に資することを使命とするものであります。

また、これらのことが、即ち、DLP（地区リーダーシッププラン）を推進することであり、とりもなおさず、地区と各クラブ間の連携とコミュニケーションを推進することになり、ひいてはロータリアンのロータリーに対するオーナーシップ（自主性）の自覚と当事者意識の高揚にも繋がるものと思われ、そのことがまた、今、ロータリーが直面している問題点とその解決策の発見に結びついていくことになると思われます。

皆様ご存知のように昨今のロータリーにおける最も大きな課題は会員数の減少であります。過日ガバナーが表明されたように、『クラブがクラブ活動をきちんとしていないと、それは会員の減少として現れる。会員数の減少を見ているとそのクラブの状況がよく分かる。会員が増える地区にするよう活動して欲しい』。また、『ロータリーに入っただけ良かった。ロータリーが好きだというロータリアンをどれだけ多数集めることができるか努力したい』『効果的なロータリークラブ、即ち、元気で活力のある楽しいクラブは会員増強が規範となり、結果は、全て会員増強が成されたかどうかにか表れる』更に、『出席率の重視も極めて重要なポ

イントであり、出席率はクラブの活性化の尺度となる。』これは岡田ガバナーのお言葉ですが、このようにガバナーは会員増強に強い意欲を見せておられます。

クラブ活性化の指標として、会員増強のうち「増」の側面である会員の量的増加と出席率の二点について述べておられます。もう一点、会員増強のうち「強」の側面、即ち、「質」の部分について一言説明させて頂きたいと思えます。

皆さんご承知のように、これまでロータリーの指導者が会員増強に関する話の中でよく引用される、たとえ話の中に、キップリングという作家が書いた「ジャングルの法則」という動物小説の中の一節があります。

それは「群れの力は狼である。そして狼の力は群れである。」という一節であります。一匹の力が強いことが群れの力を強くする、群れを構成する一匹一匹がまさに一匹狼のように強いことが全体の力を強くするのであります。

ロータリーも一人一人のロータリアンを強くすることによって初めてロータリークラブが強くなり、クラブが強くなることによって、RIが強くなるのであります。従って、ロータリアン一人一人の内なる人を強くすること、質を向上すること、即ち会員の教育（研修）が不可欠となるのであります。これがなければ量と質の両方を考えることはできないと思えます。会員増強の「増」は量の問題、「強」は質の向上の問題であることを理解しなければなりません。要約すれば、ロータリーの活性化は会員増強、とりもなおさず会員の「増」と「強」、即ち、会員の量的増加と会員育成の為の研修の充実、そして、出席率の向上がロータリー活性化への基本的道のりということになると思えます。

次に岡田ガバナーは職業奉仕は国際ロータリーでも忘れられた部門であるとはっきり認めておられ、職業奉仕論の見直しに強い意欲を見せておられます。そのため今年度の地区指導者育成セミナーに於いても職業奉仕を新たに取り入れられました。

国際ロータリーは確かな未来を築くために世界中のロータリアンから協力を得て七つの優先項目を掲げた長期計画を策定しました。

昨今の社会のいわゆる弱者救済思考から人道的奉仕への偏重が議論される中で、職業奉仕が忘れられた部門になりつつあるとはっきり認め、新たに「ロータリー独特の職業奉仕への取り組みを強調する」が一項目加えられ、久しぶりに職業奉仕委員会が復活し、活動を始めています。職業奉仕を基盤とした倫理と人道的奉仕の両方が揃ってこそロータリーだと国際協議会で元RI会長の講演がありました。

2009～2010年度は世界同時不況が世界のあらゆる地域で同時進行する年になり、このような非常時にはロータリー精神を発揮して職業奉仕に徹して何としてもこの大恐慌に勝ち残って頂きたい。それがロータリアンの務めでもあると述べておられます。

もう一つ職業奉仕で今や全世界のロータリアンの行動指針として推奨されている「四つのテスト」

ですが、今年度地区指導者育成セミナーで基調講演をされましたRID2700パストガバナー広畑富雄氏が「ロータリーの心と原点」（基本に帰ろう）という著書の中で、「四つのテスト」とビジネスの繁栄についてアメリカのあるクラブの週報に掲載された「四つのテストと歴史」題した一文を紹介されております。皆さん良くご存知のハーバード・テーラーによるクラブアルミニウム再興の話はあまりにも有名で、世界中が金融危機に悩む現在、経営改善に取り組む経営者の経営理念の支柱として、この「四つのテスト」は有効な役割を果すことになるかもしれない。

昨年米米国発の金融危機に端を発した世界不況、日本や欧州を始めブリックスなどの新興市場国も景気悪化が鮮明で、世界経済の先行に対する不安感が一層強まりそうな現在の状況は、「四つのテスト」が考案された時代背景に酷似していると云われております。「四つのテスト」はロータリアンであれば知らない人はいない、しかし、「四つのテスト」がビジネスの繁栄に結びついたということは知らない人の方が多いと思われる。要するに、ハーバードテーラーが「四つのテスト」の励行により、この倒産寸前の会社を見事再興したという話が現代の経済社会にオーバーラップするような気がして一種の新鮮さを覚えるところであります。

このように有名な「四つのテスト」ですが、月の世界に置いてあるのを皆さんご存知ですか。この話は昨年当クラブの藤中クラブ管理運営委員長がクラブ研修会でお話されました。皆さん覚えていますか。今年の夏は宇宙に関する話題がたくさんありました。バズ・オールドリン宇宙飛行士は月面に「四つのテスト」のピンを置いて来ました。今から40年前の1969年7月16日、アポロ11号はケネディ宇宙センターから打ち上げられ、月に行きました。アポロ11号は人類初の有人月着陸ミッションで、乗員はニール・アームストロング船長、そしてマイケル・コリンズ、バズ・オールドリン、3名の宇宙飛行士が乗船した宇宙船「コロンビア号」は月の軌道に入り、アーム・ストロング船長とオールドリン宇宙飛行士は月着陸船イーグルに乗換え、7月20日「静かの海」に軟着陸。着陸から六時間半後、二人は月面に降り立ち「これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍だ」と、有名な言葉を述べました。当時その様子をテレビで見ていて大変感動したことを覚えております。月面に21時間36分滞在した後、二人は21.55kgの月の標本と共に、コリンズ宇宙飛行士が待つ司令船「コロンビア」に戻った後、7月24日無事地球に帰還しました。彼らは月にアメリカの国旗やそのほか色々な記念品を残して来たのですが、バズ・オールドリン宇宙飛行士はその時「四つのテスト」のピンも一緒に置いて来たのです。

ロータリアンとしては漠然と月を見るのではなく、月を見たらかぐや姫ではなく「四つのテスト」を思い出さなければならない、お月見の内容が変わることになりました。このことはロータリー100周年記念出版物「奉仕の一世紀」国際ロータリー物語の155ページに書かれております。「四つのテス

ト」を思い出せば、アポロ11号を、月を見れば「四つのテスト」を思い出す。私たちの行動指針「四つのテスト」が月の世界にもあると思えば、又認識も新たになり、大変素晴らしいことだと思います。

次に話は変わりますが、RID2700パストガバナー佃亮二氏が“ロータリーで大事なことが三点ある”とクラブ運営について述べておられます。

第一は、ロータリーは奉仕活動を行うにあたって、各クラブが絶対的な自主権を持っている。RIは如何なるクラブに対しても特定の奉仕活動を命令したり、禁止したりすることは絶対してはならないという原則です。RI、地区、クラブと組織があるが決して上下関係ではなく各クラブの活動を決めるのはあくまでもクラブの自主的判断による。

このことは、ロータリー100年の歴史の中でも重要な文書の一つである決議23-34に明記され、手続要覧にも記載されております。この文書が出された背景は1920年ごろから身体障害者の支援についてロータリー全体として取り組むべしという考え方と各クラブは夫々独立の存在で完全自治権を持っているという考え方が対立し、ロータリーがあわや分裂の危機に陥った。分裂回避の為に作られた文書であり、単に社会奉仕に関する論点だけでなくロータリーの基本的あり方に関する考え方が多く記述されているのです。第二は寛容の精神です。個々のロータリアンがロータリーに関して見出す価値や喜びは人によって様々です。社会奉仕や国際奉仕の具体的な活動に汗を流すことに喜びを感じる人、クラブの親睦活動の中での自己啓発に価値を見出す人など様々です。先に述べた決議23-34の例はこうした考え方の相違が最も先鋭な対立に至った例です。ポール・ハリスも「人の考え方は、その気質や遺伝環境経験など幾多の要因で形成される、人によって考え方が違うのは当たり前だ、だから独断的なロータリーの主張は無益だ」といった類の言葉を随所に残しています。このような人々の価値観の相違があるが、ロータリアンとして一つにまとまる、それは寛容の精神「相手の善意を信ずる心」だと思います。寛容の精神こそロータリーが目指す友愛と親睦の堅い基盤をなすものと考えます。

第三はObject Of Rotary、ロータリーの綱領、ロータリーの目的を熟読玩味して欲しいということです。ロータリーは発足以来100年間に社会奉仕や国際奉仕の分野で多くの成果を上げてきました。特に1985年以来取り組んできたポリオ撲滅の取り組みは人類に対する大きな貢献です。しかし世の中を広く見渡すとロータリーと同じく善意に基づく慈善団体や奉仕団体は他に多く活動をしています。しかしそのような団体の中であってロータリーは他の団体とは画然と異なる、それはロータリーの本質原点というべきものであり、それがObject Of Rotaryの中に明確に示されています。

ロータリー100周年記念出版物「奉仕の一世紀」の中に「ロータリーには“有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し育成する”という実際ただ一つの目的がある」と記述されております。ロータリーの唯一の目的は「有益な事業、職業」の基礎

に「奉仕の理想を据える」ということです。「職業の基礎に奉仕の理想を置く」とは「自分の職業の倫理性を高めそれを通じて広く世の中に貢献する」ということだと思います。このようにロータリーで大事な三点は、1. クラブの自主権 2. 寛容の精神 3. ロータリーの綱領(目的)の理解であると述べておられます。

さて、最後にポール・ハリスの回顧録の中からポール・ハリスの有名な言葉を一つ紹介しておきます。ポール・ハリスはロータリーについてこのように述べています。それは「ロータリーとは何か」についてであります。

“ロータリーとは何か。何千人のロータリアンに聴けば何千通りの答えが帰ってくるだろう。しかし、もしロータリーがより寛容で、より他の人の良さを認め、より他の人と親しく交わり助け合うようにしてくれるなら、そして人生の美しさと喜びを発散し伝えるようにしてくれるなら、それが我々が求めるロータリーの全てである。それ以上ロータリーに何を求めることがあろうか。”

非常にヒューマンイズムの精神に溢れた言葉であるといわれており、これを知ることによって、ロータリーの魅力を再発見することが出来るに違いない。

本日は引き続きクラブ協議会を開催して頂きますので、本年度当クラブが活動目標達成の為に取られる基本方針なり、活動計画について活発な意見交換をして頂き、本日のプレ公式訪問が有意義なものとなりますようお願い申し上げます、ご挨拶にかえさせて頂きます。どうも有難うございました。

《クラブ協議会》

本庄ガバナー補佐、市川補佐幹事、会員22名出席により例会終了後引き続いてクラブ協議会が行われました。各委員長より本年度の活動について報告があり、その後質疑応答が行われました。



出席報告

総員	出席	欠席	メイク	免除	出席率
37名	31名	2名	1名	3名	94.12%